

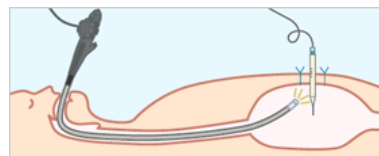
2015 年 7 月 30 日

安全性と簡便性の両立を追求し、手技時間の短縮をサポート 「イディアルシース PEG キット」を発売

オリンパス株式会社(社長:笹 宏行)は、医療事業・消化器科の新製品として、より簡便な経皮内視鏡的胃ろう造設術(PEG/ペグ)を目指した処置具「イディアルシース PEG キット」を、2015 年 7 月 30 日に国内で発売します。

経皮内視鏡的胃ろう造設術(PEG:percutaneous endoscopic gastrostomy)とは、口から食事を取ることができない患者さんの胃に栄養を送るために、内視鏡で胃内を確認しながら体外と胃をつなぐ小さな穴(胃ろう)をつくり、その穴にカテーテル(チューブ)を入れる手技のことです。そのチューブを通して栄養を摂取します。

PEGの手法のひとつである「Introducer変法」(右イラスト参照)は、他の手法と比べ、内視鏡の挿入が1度で済むため、患者さんの苦痛軽減が期待できます。また、カテーテルを腹壁に設置する際にカテーテルが咽頭部を通らないため、胃ろう造設部に咽頭(いんとう)の常在菌などが感染する危険が少ないと言われています。



「Introducer 変法」手技イメージ

当社は、この手技に対応する製品を2007年から販売してきました。今回発売する「イディアルシースPEGキット」は、胃ろうを造る際に必要な新開発の器具を2種類採用し、「Introducer変法」をより簡便に行うことができるよう、安全性・簡便性の両立を追求した製品です。本製品により、手技時間の短縮をサポートし患者さんの苦痛軽減に貢献するとともに、PEGを必要とするより多くの患者さんの治療・回復に貢献することを目指します。

●発売の概要(国内)

販売名	発売日
「イディアルシースPEGキット」※1	2015 年 7 月 30 日

※1 ①ボタン②オブチュレータ③栄養用接続チューブ(チューブ長 60cm)④減圧用接続チューブ(チューブ長 60cm)
⑤胃壁固定具(2 ショットアンカー)⑥22G 穿刺針/J 型カニューラ⑦ダイレータ胴体部⑧シース⑨リリースロッド
⑩体表固定具の 10 点が1つになったキット 製造販売元:秋田住友ベーク(株) 販売元:オリンパス(株)

●主な特長の概要

1. 新開発の2種類の器具により簡便性を追求し、手技時間の短縮をサポート
2. シースの使用により、手技の安全性の向上をサポート
3. 手技時間の短縮により、患者さんの苦痛軽減に貢献



「イディアルシース PEG キット」
(左から、シース及びボタン、一期的ダイレータ、胃壁固定具)

当社は、戦略的事業拡大に向けグループの再編を行い、2015 年 4 月 1 日より、オリンパスメディカルシステムズ(株)の機能は会社分割により一部を除いてオリンパス(株)に承継されました。医療事業は「消化器科」、「外科」、「泌尿器科婦人科」、「耳鼻科」、「医療サービス」の 5 事業ユニットで構成されており、本製品は「消化器科」の製品です。

●市場導入の背景

近年、高齢化に伴う脳血管障害や神経疾患などの増大により、食事を口から取れない、あるいは飲み込むことが困難な患者さんが増えています。PEGは、そのような患者さんが必要な栄養を摂取し生命を維持するだけでなく、再び自力で食事をするためのリハビリにも、重要な役割を担っています。また、喉頭がんや甲状腺がんなど、頭頸部(とうけいぶ)領域のがん治療における、放射線・抗がん剤による副作用などで食欲がない患者さんへの適用も拡大しています。いずれも、PEGによって十分な栄養摂取が可能なことにより、少しずつ自力で食事をしたり、体力を落とさず治療に専念したりすることをサポートします。今回、安全性・簡便性を追求した「イディアルシースPEGキット」を発売することで、PEGを必要とするより多くの患者さんの治療・回復に貢献することを目指しています。

●主な特長の詳細

1. 新開発の2種類の器具により簡便性を追求し、手技時間の短縮をサポート

PEGを行う際に重要な最初の手順は、穴を開ける位置で腹壁と胃壁をしっかりと固定することです。新開発の胃壁固定具は、1本で2発の穿刺と糸かけが可能で、より簡便な結紮(けっさつ=糸を結ぶ手技)をサポートします(右図:穿刺の様子(左)と結紮したところ)。



また、カテーテル挿入のために、腹壁に開けた穴を拡張する際に必要な器具であるダイレータも新たに開発しました。新開発の「一期的(いっきてき)ダイレータ」は、挿入ルートの確保とダイレータの役割を1本で果たすだけでなく、シースの留置まで一貫して行うことを実現します。

これらにより、「Introducer変法」において、これまで取り組んできたシースによる安全性の向上(主な特長「2」)に加え、簡便性の両立に貢献し、手技時間の短縮をサポートします。

2. シースの使用により、手技の安全性の向上をサポート

当社は、安全性が高いとされるPEGの手技「Introducer変法」に対応する製品を、2007年から販売しています。2011年からは、シースという器具を用いてより安全で確実に本手法を行えることを目指した製品を販売し続けています。シースとは、体外と胃をつなぐトンネル状の空間を確保する管状の器具です。これを介したカテーテル挿入を実現することで、気腹^{※2}や胃の裂傷^{※3}などのリスク軽減をサポートすると同時に、シースのふたが胃内空気の抜けを予防してくれるなど、安全性の向上が期待できます。

3. 手技時間の短縮により、患者さんの苦痛軽減に貢献

「Introducer 変法」において、安全性・簡便性を追求し手技時間の短縮をサポートすることで、患者さんの苦痛および医師のストレス軽減に貢献します。加えて、PEG を必要とするより多くの患者さんへの治療・回復に貢献することを目指しています。

※2 腹壁と胃壁の隙間から腹腔内に空気が入ってしまうこと

※3 カテーテル留置の際になんらかの外的要因から胃壁が裂けてしまうこと

●オリンパス PEG(胃ろう)情報サイト

URL: <http://www.pegnet.jp/>

本リリースに掲載されている社名及び製品名は各社の商標または登録商標です。